



中春別小学校  
学校便り

窓

第6号

発行責任者 校長 若松 正  
令和5年8月31日発行

## 大人と子ども

4年生以上が活動している委員会活動のひとつ、放送委員会が呼びかけ全校児童から募集し、お昼の放送で紹介してくれている俳句や短歌などの作品たち。放送室前の掲示板に貼りだされた作品を読むと、子どもたちの発想の豊かさや情景を切り取る視点にハッとさせられるものがあり、大人が作ったような上手な作品だなと感じることがあります。言うまでもないことですが、大人は何でも上手にできて、子どもがつくるものは未熟ということでは決してありません。何事においてもそうですが、物事に対する時間の費やし方や心の受け止め方、のめり込み具合により、好き好きの度合いはもちろん、得手不得手もまるで変わってくるもので、そこに年齢の差はないように感じます。

大人が子どもより優っているとは限らないという点では、ここ最近よく耳にする“非認知能力”もそのひとつだと感じています。非認知能力とは、興味や意欲、協調や自信など「人が持っている内面的なスキルのこと」で、数値には表すことのできない力のことです。そう思って子どもたちの様子を振り返ってみると、粘り強くひとつのことに取り組む姿勢やともだちに対し気遣う場面、大勢の前で自信を持って呼びかける様子など、大人顔負けのふるまいをしている場面をたくさん見かけます。とくに意欲を持って取り組んだり、好きなものに夢中になる力に関しては、我々大人は子どもたちに到底及びもしないと感じます。そもそも“大人顔負け”という言い回し自体が古臭いものかも知れません。

大人も子どもと言えば、先日行われた根室地方PTA連合会研究大会・子育て研修会において、講師の方が講演されたアンガーマネジメントに関するお話の中で、怒りの感情に支配されてしまう要因のひとつとして、感情を言葉にできないこと、感情を正しく理解・認識し、表現できる力を高める必要があるとのお話をされていました。耳に残ったのは、「感情を言葉にできない“大人や子どもが多い”」というように、お話の中で幾度も「大人も子どもも」と前置きをして話されていたことです。たとえば「今の子どもは・・・」と話した後、とってつけるように「・・・まっ、大人にもそういうところはなくはないですが。」と、大人はそれなりにきちんとできていることを前提として語られるのはよく耳にしますが、「大人も」というところを最初に持ってきているところが新鮮でとても印象的でした。

さて、ご協力いただきました学校評価の結果を別途配布しておりますが、結果を見て嬉しく感じたことに、「挨拶・礼儀」に対する保護者の皆様、子どもたちの評価がともに高くなったことがあります。この結果は、子どもたち自ら、委員会の取組などで挨拶をよびかけてきていることなどのあらわれだと感じます。そして子どもたちの気持ちをご家庭が支えてくださっていることが学校評価などのご意見を通して伝わってきます。ご家庭で挨拶の大切さについて話し頂いたり、身近な大人が普通に挨拶をしている姿を見せていたりすることを通して、子どもたちには挨拶が当たり前のこととして自然と伝わっているのだなぁと感じます。子どもにとって、よきロールモデルでいられるよう努めることが大人の役割であることを改めて考えるよい機会となりました。学校評価へのご協力ありがとうございました。

今年の夏はこれまでに経験したことのない暑い日が続きました。例年であれば二学期が始まる頃には秋風を感じ、朝晩の冷え込みに肩をすぼめる日も出てくる感覚がありますが、暦から感じる季節感と実際の気候が大きくずれてきているように感じます。体が季節に慣れるのも一苦勞です。日が傾きかけた頃の空に浮かぶうろこ雲を見つけては、ほっと一息。どうぞお体にご留意いただければと存じます。